



## スノーロールの通せんぼ

雪が積もった三瓶山を歩いていたら、大きなスノーロールが道をふさいでいました。木の枝についた雪が斜面にぼとりと落ちて転がり、雪だるまのように雪をくっつけながら大きくなると、スノーロールができあがります。登山道にはまって止まったこのスノーロールは直径60cmほどあるかなり大きなもの。少し湿っぽい新雪がちょうど良かったのか、この日はあちらこちらで大きなスノーロールを見ることができました。大きくなりすぎて転がりながら壊れてしまったスノーロールもあちらこちらに。

冬の山は雪と氷がいろいろな造形を見せてくれる面白さがあります。冷え込んだ朝は土がむき出しの場所では霜柱が伸びていたり、遠くに広がる霧の海を見ることができたりできるでしょう。

危険性が高まる雪山ですが、三瓶山には比較的安全にスノートレッキングを楽しめるルートがあります。スノーシューやノルディックスキーで雪の草原を歩けばいろいろな発見があるでしょう。さあ、この冬は雪の三瓶山に出かけてみませんか？

# 冬の星たち



冬の  
大三角

カノーパス→

出雲市の日御碕付近から見たカノーパス

冬の夜空でまず見つけやすいのは、オリオン座と冬の  
大三角です。

真冬の南の空に見えるオリオン座は、砂時計のよう  
な星の並びをしていて、狩人オリオンの姿を表してい  
ます。左上の赤っぽい星ベテルギウスと、右下の白い  
星リゲルは、1等星と呼ばれる特に明るい星です。

オリオン座の左下には、おおいぬ座のシリウスが輝  
いています。シリウスも1等星といわれますが、すべて  
の1等星の中でも最も明るい星ですので、本当に目立  
ちます。その左上にあるプロキオンも明るめの1等星  
です。そして、オリオン座のベテルギウスと、シリウス、  
プロキオンを結ぶと、「冬の  
大三角」になります。

星座では、シリウスはおおいぬ座、プロキオンはこ  
いぬ座の星ですから、オリオンが二匹の猟犬を連れて  
狩りに出かけるところのようにも見えます。

1等星はほかにも見えていて、プロキオンの上には、  
ふたご座のポルクス、頭の真上あたりにはぎょしゃ

座のカペラがあります。また、オリオン座の右上のオ  
レンジがかった星は、おうし座のアルデバランです。

紹介した7つの1等星のうちベテルギウス以外の6  
つを結ぶと、大きな六角形が作れます。これを「冬の  
大六角形」といい、「冬のダイヤモンド」と呼ぶ人も  
います。

これらの1等星に加え、この冬はもう一つ明るい星  
が見えています。おうし座のアルデバランの近くに、  
それよりも明るく赤く光るのは火星です。ほかの星より  
先に目につくかもしれません。ただし、日が経つにつ  
れ火星はだんだん暗くなっていきますし、星座に対す  
る位置も少しずつ変わります。ベテルギウスやアルデ  
バランと明るさや赤さを比べていくのもよいでしょう。

ところで、もう一つ冬の1等星があります。シリウス  
が真南に差しかかる少し前、南の地平線のすぐ上に見  
えるりゅうこつ座のカノーパスです。カノーパスは本来  
白く光り、シリウスの次に明るい星なのですが、そん

なふうには見えません。夕日と同じで、低いところにある星は空の影響を受けて、夕日と同じように暗く赤くなるのです。カノープスは南の開けたところで探してみてください。

寒いですが、晴れた夜にはきらびやかな冬の星をたどってみてください。

(学芸課 竹内幹藏)

1月20日午後10時ごろの島根の空



## サヒメル自然観察コーナー 冬の水場にやってくる鳥たち

「野鳥の水浴び」というと、暑い季節のイメージがあるかもしれませんが。しかし、雪が降りしきる冬の水場にも、野鳥たちはやってきて水浴びをします。それは、水浴びの理由が「暑さ対策」ではなく、「羽毛を整える」ためだからです。

水場でみられる鳥の数や種類は冬になると減りますが、天気の良い日には水浴びに来るめずらしい冬の鳥たちの様子が観察できます。

(学芸課 星野由美子)



カラの混群

異なる種類の鳥たちと群れを作ることで、冬を乗り越える小鳥たちがいます。ここには左から、エナガ2羽、シジュウカラ3羽、ヤマガラ1羽、コガラ1羽(右手前)の4種類7羽がいます。この4種類は1年中、サヒメルの水場で観察できますが、混群になるのは冬だけです。



ジョウビタキ

冬になるとやってくる小鳥です。冬でも♂♀別々のなわばりを作ります。



ツグミ

水浴びだけでなく、周辺の地面が見える場所でエサを探す姿も見られます。

 月イチガク② 中世益田と石見銀山	<b>2/4</b> ± 14:00～15:30	中世都市の名残を色濃く残す益田。石見銀山との関わりも深い町の歴史を中司健一氏が紹介します。	定員：20名 料金：大人300円 小人100円	<b>要予約</b> <b>ONLINE</b>
 歩くスキーで アニマルトラッキング	<b>2/5</b> 日 9:30～12:00	雪におおわれた北の原を歩き、足跡など動物たちの痕跡や植物の冬芽を探して観察します。	定員：20名 料金：100円	<b>要予約</b>
 月イチガク③ 「石見の火山」を歩く in 温泉津	<b>3/4</b> ± 13:30～17:00	古い町並みが残り、石見銀山遺跡の一角でもある温泉津を、日本遺産「石見の火山」の視点で歩きます。	定員：20名 料金：無料	<b>要予約</b>
 星よりも、遠くへ	<b>3/11</b> ± 12:15～14:00	東日本の震災がテーマのプラネタリウム「星よりも、遠くへ」の投影と「まい&れいれい」のコンサート	定員：100名 料金：無料	
 サヒメル きっずサンデー	<b>3/19</b> 日	毎月第3日曜日はきっずの日。きっずプラネタリウムなどきっず向けのイベントが盛りだくさん!!	定員：なし 料金：入館料 (小中高生無料)	

**要予約** このマークがあるイベントは、1ヶ月前から実施する施設ごとに予約を受付します。天体観察会はホームページから、その他はお電話で。

 三瓶自然館：0854-86-0500

 三瓶小豆原埋没林公園：0854-86-9500  
(さんべ縄文の森ミュージアム)

 三瓶山北の原キャンプ場：0854-86-0152

イベントが変更、中止の場合はHP等でお知らせします。また、毎週土曜日の天体観察会は予約制で実施しています。

## 三瓶か富士か、石工の遊び



写真は大田市長久町にある野井神社の石垣です。江戸時代後期に作られた石垣は精密でぴたりとそろっていません(右下の写真)。この見事な石垣にはちょっとした「遊び」があります。山の形に突き出した石があり、「文政二年」(1819年)の年号と奉納者名に加えて、「石工 備前 徳蔵」名が刻まれています。

江戸時代の備前では児島湾などの干潟を干拓し、広い農地を作りました。長い干拓堤防を硬い花崗岩で作ったことで石工の技術が培われ、備前の石工は全国に招かれて仕事をするようになったのです。野井神社もそのひとつで、石垣には神社の近くで採れる硬い安山岩を使い、それを見事に組み合わせています。三瓶山にも富士山のようにも見える「遊び」の石は周囲の石と入り組んだ形で組み合わされており、石工の技術を見て取れます。複雑な形で石を組み合わせるのは、石のずれを防ぐ目的から始まり、やがて技術の高さを見せつける意味合いを持つようになったようです。この石のように遊びの形を組み入れることも備前石工の特徴です。普段は見過ごしそうな石垣にも歴史が刻まれているのですね。



### 鳥根県立三瓶自然館サヒメル

■開館時間

9:30～17:00

■休館日

毎週火曜日(火曜日が祝日の場合は翌平日)  
年末年始、その他、メンテナンス休館あり



### 三瓶フィールドミュージアムニュース <隔月発行>

編集・発行 公益財団法人しまね自然と環境財団

〒694-0003 鳥根県大田市三瓶町多根1121-8

TEL 0854-86-0500/FAX 0854-86-0501

<エコサボしまね> 〒690-0887 鳥根県松江市殿町8-3 TEL 0852-67-3262

しまね自然と環境財団は、三瓶自然館等の指定管理者です。  
エコサボしまね(松江事務所)では、地球温暖化対策等の事業を行っています。